

令和3年度 学校経営計画表（通信制）

1 学校の現況

学校番号	22		学校名	県立水戸南高等学校				課程	定時制、通信制		学校長名	川内 孝雄				
教頭名	菅谷 則行 (定時制・昼間制)			小坪 正代 (定時制・夜間制)				井上 宏孝 (通信制)			事務室長名	千葉 一夫				
教職員数	教諭	66	養護 教諭	2	常勤 講師	5	非常勤 講師	13	養護教諭	1	事務 職員	6	技術 職員等	9	計	107
生徒数	課程 ・ 学科			1年		2年		3年		4年		合計		留年		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	定時制(昼)普通科			30	24	40	25	32	27	9	7	111	83	8		
	定時制(夜)普通科			5	2	8	6	8	1	1	2	22	11	4		
	通信制	普通科	46	74	62	74	56	75	57	80	221	303	24			
		ライフデザイン科	17	27	11	22	11	25			39	74	3			

2 目指す学校像

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。 JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心豊かな学びを実現する。

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
進路指導 キャリア教育	・社会的状況により、生徒の進路希望の達成がさらに難しくなっている。	・生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成 ・新型コロナウイルスによる経済の低迷による求人数減への対応
学習指導	・入学目的が多様で、生徒の学習に対する姿勢も様々である。 ・不登校経験の生徒など、コミュニケーション能力や社会性が低い生徒も多い。	・生徒一人一人に対応した学習支援による単位取得率の向上(R元 58.3%、R2 67.4%) ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成
生徒指導	・活動生において問題行動を起こす生徒はほとんどいない。 ・不活動生による問題行動に関する問い合わせがある。	・不活動生向けに「規範意識向上」の通知の送付
特別活動	・集団生活を苦手としている生徒が多い。 ・有職生徒は、仕事の関係で学校行事に参加できない場合がある。	・集団生活に適応する資質の向上 ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成

教職員	・レポート添削やスクーリングなどにより、丁寧な指導をしている。 ・ICT機器を活用した指導へのさらなる取り組みが必要である	・ICT機器を活用したスクーリングの取組の推進 ・生徒の授業評価等を取り入れた授業改善の推進
広報活動	・県立高校唯一の通信制設置校としての地域や中学校、高等学校へのさらなる周知が必要である。	・地域や中学校、高等学校へ、通信制教育活動への理解を深めていただくための広報活動の活性化
働き方改革	・勤務時間超過が規定を上回る職員はいない。 ・電子機器を活用しさらなる効率的運営への取組が必要である。	・働き方改革を進めるため、ネットワーク等を活用した会議など校務運営の効率化の推進

4 中期的目標

- 1 よりよい進路選択をするため、自ら情報を収集し、実現に向けて計画的に進める能力の育成を目指す。進路ガイダンスやキャリア・パスポートの積極的な活用を通して、低学年からキャリア教育を推進し、進路意識を高めていく。
- 2 文化やスポーツの能力を伸長する生徒、働きながら学ぶ生徒にも対応できる、単位制や三課程の特色を生かした普通科教育の場として、中学校卒業の生徒が進路先として選ぶ高校であることを定着させる。
- 3 交通至便な立地にある静かな学びの場で、小中学校で不登校を経験した生徒などが落ち着いて学習できる環境を提供するとともに、学び直しや中途入学の高校として、一人一人の目標実現に寄与する。
- 4 髪型や服装への制約やストレスがなく、生徒が自分自身と向き合う場として、学校本来の大切さを感じられるオーソドックスな高校であることを中学校や社会に周知する。
- 5 教職員一人一人が働き方改革に取り組み、自らの授業・スクーリングを磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や想像力を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行う。
- 6 自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるとともに、自己が生来もつリソース(強み)に気付き、個性の伸長を目指す姿勢を身に付けさせる。

5 本年度の重点目標(通信制)

重点項目	重点目標
学習指導のさらなる充実	・自己指導能力を育み、自学自習の習慣を身に付けさせられるような、丁寧で的確な添削指導を行う。 ・スクーリングの際におけるICT機器の活用を推進する。 ・生徒の単位認定に至るまでの学習活動におけるICT化の可能性について検討を進める。
生徒の社会性の向上	・多様な学校行事を企画し、多くの生徒の参加を促す。このことを通して、個々の生徒のもつ特性を活性化させるとともに、他の生徒との交流を深めさせることにより、社会性を育成する。 ・外部機関が主催する行事や大会、ボランティア活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。
保護者、家庭との連携強化	・月1回発行する「南通信」を通して、通信制課程の教育活動や学習の取組方法を周知する。 ・「学校ホームページ」「メール配信」などで、随時情報発信を行い、保護者、家庭との連携を強化する。

教職員の資質向上	・全国及び関東地区の通信制教育研究会の研修会への参加を促し、通信制教育の意義や各校の指導方法を学ぶ。 ・先進校の取組を紹介する校内研修を行い、ICT機器の活用などより充実した指導方法を学ぶ。
学校運営の効率化 (働き方改革)	・教育情報ネットワークの「電子会議室」等を利用し、会議等を効率的に行うなど、働き方改革を進める。 ・同一業務同一フォーマットの考えにより、利便性の高い統一フォーマットを作成し、業務の見直しや改善を図る。 ・PDCAサイクルを確立し、教員業務の見直しと業務改善の推進を図る。
広報活動のさらなる充実 (地域との連携強化)	・ホームページやチラシ等による情報発信機能を充実させ、県立高校通信制としての教育活動を広く地域に周知する。 ・中学校、高等学校を訪問して情報提供を積極的に行い、「学びのセーフティネット」としての役割を周知する。 ・学業継続を希望する生徒を広く受け入れるため、就業者など地域の方々にも広く周知する。